

平成 29 年度岩手県二戸保健所運営協議会 会議概要

1 開催日時

平成 30 年 3 月 6 日 (火) 18:30~20:08

2 開催場所

二戸地区合同庁舎 1 階大会議室

3 出席者

【委員】

藤原淳委員 (二戸市長)

山本賢一委員 (軽米町長)

五枚橋久夫委員 (九戸村長)

田中辰也 (一戸町長)

青木光委員 (二戸医師会長)

岩渕壯之助委員 (二戸歯科医師会長)

金澤貴子委員代理 (二戸薬剤師会理事)

種市幸子委員 (岩手県看護協会二戸支部長)

佐藤昌之委員 (岩手県立二戸病院長)

小井田潤一委員 (岩手県立一戸病院長)

相馬俊昭委員 (岩手県食品衛生協会二戸士会専務理事)

山口金男委員 (二戸地区社会福祉協議会連絡会)

木内紘委員 (岩手県公衆衛生組合連合会二戸支部長)

佐々木孝義委員 (一戸町立小中学校長会長)

荒川愛子委員 (二戸市商工会女性部長)

永井美保子委員 (JA 新いわて女性部北部支部長)

平孝子委員 (岩手県食生活改善推進員団体連絡協議会二戸支部長)

田口和子委員 (二戸市保健委員協議会長)

田中長治委員代理 (二戸地区広域行政事務組合消防本部消防次長)

【オブザーバー】

横島孝雄氏 (岩手県立軽米病院長)

小野一浩氏 (二戸市健康福祉企画課長)

於本一則氏 (軽米町健康福祉課長)

吉川清一郎氏 (九戸村住民生活課長)

片野修氏 (一戸町福祉部長兼健康福祉課長)

【事務局】

鈴木保健所長、工藤次長、玉懸管理課長、中軽米福祉課長、後藤保健課長、遠藤環境衛生課長ほか保健所職員 3 名

※事務局から、二戸薬剤師会長金澤悟委員の代理の金澤理事の出席、消防本部目時消防長の代理の田中消防次長の出席を説明。

また、軽米病院横島院長のオブザーバーとしての出席を説明。

会長・副会長選出は自薦・他薦を募ったがなかったため、センター側から、従来どおり会長を二戸市長、副会長を岩手県立二戸病院長とする案を提示し承認を得る。

4 傍聴者

なし

5 議事

※事務局から、保健所運営協議会条例第4条第2項の規定により会長である藤原委員を進行役に選出し依頼した。

(1) 平成29年度の岩手県二戸保健所業務概要について

<事務局による説明>

【議長】

次長から内容の濃い説明をいただきました。皆さんから意見等ありましたらご遠慮なくどうぞご発言いただきたいと思います。

医療介護福祉の連携というのが出てきているのですが、この連携については、この後も出てきますか。

【工藤次長】

最後の地域医療計画の部分で連携をとりながらそれぞれの課題解決にむけて取り組むというところでございます。

【議長】

議会等でもよく出てくるのですが、連携というのが具体的にはどのように連携して、ポイントは何かという意見が出されるが、なかなかポイントがつかめずにおります。

それでは、後のほうでも出てくるということですね。

【工藤次長】

はい。

【議長】

どうぞ、皆さんからもご意見をいただきたいと思います。

なければ、(2)健康いわて21プラン(第2次)中間評価について、と(3)自殺対策の推進について続けて事務局から説明をお願いします。

(2) 健康いわて21プラン(第2次)中間評価について

(3) 自殺対策の推進について

<事務局による説明>

【議長】

説明をいただきました。皆さんからご意見を伺いたいと思います。実際に自殺の表の数字を突きつけられるとガクッときますが、どうぞ皆さんご発言等ありましたらどうぞ。

相談は二戸市が半数なんですね。あらかじめ相談には行っていたほうがいいのでしょうか。そここのところもう少し詳しくご説明いただけないでしょうか。

【後藤保健課長】

去年はお金の問題や病気の問題もあり、自殺未遂をしたこともあるというような方に対し、弁護士や臨床心理士、社会福祉協議会の方と、私達が入り、その1人に対し、2人から6人の専門家が相談者の話を一緒に聞き、いろいろな視点からアドバイスをしたり、今回の相談だけでなく次の相談につながるようにしたところでした。

まずは来ていただければと思います。昨年は二戸が多かったが、今年は一戸や軽米の方もいらっしやるというかたちで各市町村から相談者があります。

【議長】

小井田先生何か発言をお願いします。

【小井田委員】

事情をよく知っているのですが、このようなさまざまなことが絡んで心が不調になり、自殺にいたるということがありますので、そういう面で複数の方々が対応していただけるというのはとてもありがたいと思っています。

【議長】

山口委員さん、何かありませんか。

【山口委員】

私は資料の2ページの喫煙について質問したいと思います。「平成28年度の市町村本庁舎の分煙化率は、県の84.8%を大きく下回り、県内で最も低い50.0%となっている。」というところについて、今日は4市町村の首長さんがいらっしやるのですが、この分煙化率について進まないというのは何かあるのですか。非常に恥ずかしいことだと思います。

【藤原二戸市長】

葉タバコの生産が日本一になったりして、たばこの分煙化は進んでいないなと思っていますが、浄法寺等の施設等は極力分煙化を進めようとしています。ただ、建物の中でも吸えるようにという要望もあったりして、なかなか進まない状況でございます。

【山本軽米町長】

軽米町もかなりの葉タバコ耕作者が多いため、なかなか吸うことに対する奨励とはならないが、吸うなとも言えない。分煙化はきちんと庁舎内は実施しています。小池都知事がオリンピックでの喫煙について厳しい発言をしていますが、吸う人と吸わない人がいかにしてお互いに悪影響を与えずにやっつけられるかどうか、吸う権利もありますし、脇で吸われて健康を害すのもそれは困りますし。

【五枚橋九戸村長】

耕作者がないわけではないので。庁舎内の部屋とか会議室は吸わないことにしていますが、玄関の入口付近や階段の踊り場等では吸ってもいいということにしています。これが分煙化になっていないという評価なんではないでしょうか。わざわざ喫煙室を設けていないためにこのような評価なのかなと思う。

【田中一戸町長】

一戸町は外に出て吸うという形なので、それが分煙化でないと言われればそういった評価なのかなと思う。

【鈴木保健所長】

私どもが調査をする時は国の基準でやっています。タバコ生産組合さんやタバコで生計を立てている人がいらっしやるのは承知しておりますし、もちろんすべての人にタバコをやめろと言っているわけではなく、国で動いているように受動喫煙をいかに防止するか、タバコを吸わない人がその煙で健康を害することなど避けていくことが必要となりますから、国でも法案をだしているところです。

現在は病院が敷地内禁煙となっていたはずですが、もし、法案がとおれば将来、官公庁も敷地内禁煙になるのではないかと。そのときにどのような対策を立てておけばいいのか、今から気になっ

ているところです。いずれ受動喫煙の防止をしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

**【山口委員】**

私も首長さん方をいじめているわけではない。ただ、流れはそうなっているということです。それから、葉タバコで生計をたてているタバコの耕作者がすべて喫煙を望んでいるわけではないと思いますから、生産地だから購買に協力しなければならないという考え方は間違っていると思います。

**【議長】**

生産地だから協力しなければならないということではなく、生計を立てている人はそちらで、それぞれが上手くまわるよう進めてまいりたいと思いますので御協力をいただきたいと思います。

あと何かございませんか。

**【山本軽米町長】**

わかりやすい説明で参考となりました。私からは健康寿命の延伸にスポットをあてて、たとえば健康を疎外する要因をいくつかあげていただき、それに対する対策とか御指導をお願いしたいと思っております。

**【鈴木保健所長】**

これは、中間評価としてわかりやすくまとめたもので、それらを実現するための事業は何をやったらいいいのかとか、具体的な手段に繋げていきたいと思っております。

基本となる中間評価と御理解いただければと思います。

**【山本軽米町長】**

児童・生徒の肥満は、やはりスクールバスとかなかなか運動させないというかそういった環境が、特にこういった中山間部では多くなっている傾向があるでしょうか。

**【後藤保健課長】**

学校の先生方が非常にそこについても現状分析をしていらして、やはり送迎を親がするとか、土日の運動量が少ないとかそういうところが原因なのではないかということで、教育委員会さんが各学校と連携して日常生活のなかで運動を取り入れられるよう、休憩時間の運動など取り組んでいます。

肥満については以前に比べて下がってきていて、ただ、他と比べるとまだ高いということで、取り組みの成果は出てきているということです。

**【佐々木委員】**

私の勤務している学校は全校児童が51人。それを各学年にわけると1学年5から6人。そのなかから1人肥満児童がでると16%程度になってしまう。この地区は分母が少ないため、率で表すと高く出てしまうのではないかと統計学的なところも考えております。

また、スクールバス利用で歩かないで学校に到着してしまう児童の数が多いというのはそのとおりかなと思います。ただ、集団登校で徒歩通学をしている児童も変わらずいますので一概にそれだけとは言い切れないと思っています。

しかし、やむを得ず保護者の送迎となる場合も、敷地内まで乗り付けるのではなくある一定のところ以降ろし、そこからは必ず歩くように呼びかけをして、肥満防止については保護者に向けても啓蒙は学校としても図っています。

あとは、給食、栄養面であるかなと思います。対象児童には一戸町の食育専門の栄養士等に個別に指導していただいている状況もあります。

【議長】

あと、その他ございませんか。

【後藤保健課長】

食生活改善推進員の方々が塩分調査した結果等をわかりやすく作成したリーフレットを活用してください。(当日会場にてリーフレット3種配布)

【議長】

(4) 青森県境不法投棄事案の現状と今後の対応について事務局から説明をお願いします。

(4) 青森県境不法投棄事案の現状と今後の対応について

<事務局による説明>

質疑なし

【議長】

よろしければ、(5) 岩手県保健医療計画(2018-2023)について事務局から説明をお願いします。

(5) 岩手県保健医療計画(2018-2023)について

<事務局による説明>

【鈴木所長】

今、二戸保健医療圏の地域編を中心にお話しました。この地域編の内容だけではなくて、広く皆さんが普段から思っている課題とか地域医療の意見等についていただきたいと思います。

なお、資料5-2の一番下を書いてある、5疾病5事業についてですが、県計画がまずあって、これはこの地域においても共通の計画だと意識していただきたい。いずれにしても、広く皆さんからご意見をいただきたいと思っております。

【議長】

何かご意見はございませんか。先生方、ございませんか。

【佐藤委員】

実は、今日も久慈病院の院長からお話がありまして、春から内科のドクターが辞めて1名になってしまう。大学からなんとか臨時で1人回してもらおうこととなったが、春からの診療体制でいろいろな検査は、二戸や軽米病院や八戸とかそういうところをお願いして対応していただく可能性があるのでもよろしく願いますとのことだった。

岩手県のなかでも特に県北は異常な危機迫る状況となっていてこれが現実である。ドクターの数の確保も大学教授をお願いして、何とか現状維持しているところだが、大学もドクターの確保というところで、新しい大学の移転ということがありますので我々のほうまでなかなか届かないというのが現状である。ただ、そうは言いながらも地域の病院を何とかしたいと考えているのが今の状況です。

【議長】

小井田先生、何かありませんか。

横島先生が、医師の地域枠の委員をやっているので横島先生から意見ををお願いします。

【横島オブザーバー】

岩手県の中で奨学金の古い制度というのは、借りる人がいて払い終わる人がいるというものです。新しい制度というのが地域枠で、その分はどんどん増えるわけですね。そこをちょっと期待

しているわけで、客観的にみると平成 40 年くらいには岩手県の医師不足はある程度なくなると言われています。ただ、まだ全く実感として感じられていなくて今のところは地域枠として人が来るのを待っている状態。二戸も一戸も軽米もどこも同じですが、前からいる先生が歳をとっていなくなれば診療できないという状態。早く若い先生が来てくれて次の世代の先生が育たないと我々も皆さんも安心できない状況ですね。

久慈病院の院長先生が軽米に手伝いに来たりして、お互いに医師の数が足りないからこうやっている状態ですね。院長でも副院長でもこうやっている状況です。

こういう状況だということをお話させていただいて、ご不便をおかけすることもあるかもしれませんが、皆さん地元の医療を守っていきたいという気持ちはお持ちですから、そのような目で見守っていただければと思います。

**【議長】**

青木先生、いかがですか。

**【青木委員】**

二戸医師会と開業医の代表でお答えしますが、開業医は結構増えているんです。だから、たとえば病院の先生方が忙しいのは開業医にまわってくればいい患者さんが、先生方の手を煩わしているという現状があるからだと思います。だから、もっと、もっと患者を開業医へ回してもらえると何とかよくなるのではないかと思うんです。それで、保健所さんが医療計画を組んだものがここにあると思うんですが、役割分担をきちんとするとか、ないものをねだつてもしょうがありませんから、あるもので頑張っていこうという考えならば、そういうことも県が指導するような方向で頑張つて、患者さんが先生を選ぶような贅沢は言っていられない状況だから、風邪とかは開業医に見てもらおうとかしてほしいと思います。

**【議長】**

そのほかご意見等ございませんか。

**【山口委員】**

5 ページの一番下、介護従事者の確保支援について、市町村が、ケアマネージャーなどの介護専門職の資格取得の支援について検討するなど地域包括ケアシステム構築に資する人材を地域全体で育成する取り組みを進めるとありますが、去年の暮れに岩手県と話をしたときもこのような抽象的な話でした。今日いらしている首長さん方には積極的に取り組んでいただきたいと思っています。ケアマネージャーの資格を持っている方も 60 代から 70 代の方もいてどんどん退職している。ケアマネージャーの資格は実務経験が必要ですから働きながら取得することになるのですが、こういったものをどうお考えでしょうか。支援する用意等はあるのでしょうか。

**【藤原二戸市長】**

人材不足は日々感じておりますし、意欲のある方は応援したいとも思っています。今日の資料にもありますが、課題や分析はできているのですが、いつから誰がどれぐらいやるのかといったのがなかなか出てこないんですね。計画をみてもおそらく皆さん同じように感じているんじゃないかと思っています。30 年度からは地域包括ケアシステムが各市町村で動き出します。具体的に動き出してみないと課題や問題点が明らかにならないところもあると思います。

**【山口委員】**

これは待ったなしです。ここのところは、首長さん方にも考えていただかなければならないところです。どこの市町村でも同じです。介護事業所を経営している事業主さん方もそうだと思います。もちろん社協も同じです。これは、「早く取り組みを進めます」ではなく具体的に動いて

欲しいというのが私からのお願いです。

**【鈴木保健所長】**

保健医療計画の地域編のなかに介護の事業従事者の確保のことについて、盛り込んだのは県内で初めてかもしれません。多くの医療の現場からも、介護側の従業者がとても大切だと意見をいただいたのでこのようにしています。今後、進捗管理をしていきますので、ここに書いていることが地域でどれだけ進んできたのかということも、ただ、各市町村にやってくれということではなくて、各市町村がここまで進んだということを毎年、皆さんにできるだけわかりやすく伝えてまいりたいと思います。これが精一杯の回答ですのでよろしくお願いします。

**【山本軽米町長】**

軽米町でもケアマネージャーは不足の傾向にあります、(資格の)更新にあたって経済的な負担がかかるということで、勤務している方は事業所で負担してくれるようですが、そうでない方は個人で負担しているという、そういったことの救済措置をどうしていくかこれから検討していかなければならないと思っています。やはり、おっしゃるとおり最重要課題だと認識しています。

**【鈴木保健所長】**

山本町長さんにご発言いただきましたので、まさに、県立病院を支える大変大きな行事を町長自らリーダーシップをとっていただいて開催していただきました。町民の方々も、県立病院の現状とか青木先生からも発表いただきましたので、地域のいろいろな医療の現状を多くの町民の方に知っていただいて、町民の方々自らができることがあるんだという意見をいただきました。町長さんには今後もそういった取り組みをやっていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

**【議長】**

そのほか何かございますか。

課題分析だけではなく具体的にはどうすればいいのかということに、真剣に取り組んでいく必要があるなと感じました。

(6) その他、委員の皆様から何かございませんか。

**【鈴木保健所長】**

救急医療に関係することになりますが、消防署の田中次長さんにご出席いただいておりますので、お配りした資料を短時間ではありますがご説明をお願いします。

**【田中委員代理】**

最後の資料です。二戸地区広域行政事務組合消防本部バイスタンダードサポート実施要領といひまして、救急現場において応急手当を実施又は試みた住民に対し、消防本部が関係機関の協力を得て支援を行うという内容のものでございます。

名刺大のカードタイプのもので、現場で救急隊等が応急手当を行ってくださった方にお配りするもので、相談窓口が記載されています。

具体的には、窓口の役割が要領の第4条(3)に記載されています。現場で怪我した人、心臓が止まった人、大出血の人たちに行った応急手当を行った、死体にさわった、血液に触れた等現場での対応により、その体験を夢に見るとか、血液をさわったことによる感染の不安とか心的ストレスに関する悩みを相談してほしいという趣旨で立ち上げられたものです。

こういった悩みをどこ相談したらいいのかわからないということで、このカードを作成し現場で応急手当を行ってくれた人をバイスタンダーといひますが、その方々に現場でお渡しします。

消防本部では窓口となり悩みの種類に応じて、保健所だったり病院を紹介したりということ

いたします。

参考までに、昨年度の心肺停止の患者が 125 人おりました。その中でバイスタンダー、いわゆる一般の方が心肺蘇生の措置をしてくれたというのは 71 件ありました。消防本部では心肺蘇生法の講習等も事業所等でも数多く実施しておりその表れだと思っています。その他、止血や骨折の応急処置等を行った方々が 191 件ありました。その方々がやはり事故現場を見てしまい眠れなくなったなど心のストレスや不安を抱えるんですね。国の立ち上げで各県、各消防でもやりましょうということで、昨日から二戸の消防では実施するということで、二戸広域のホームページや広報にも掲載する予定ですので参考までにご紹介させていただきました。よろしく願いいたします。

**【議長】**

その他ございませんか。

それでは、議事を終了させていただきます。皆様の御協力をいただきましてありがとうございました。